

## 社会資本総合整備計画

(様式第7)

計画の名称	諸塚地区都市再生整備計画										
計画の期間	平成24年度～平成28年度			交付団体	諸塚村						
計画の目標	対象地域住民と村民、行政、そして外部からの観光などの交流客が協力し、お互いの立場を超えて助けあうことで、縁を紡ぐ互縁社会が真の価値を生む「協創の森・諸塚」のシンボルとしての交流空間、商業空間を創出することが目標である。そこは、地域を支えるひとづくりを重視し、地域に誇りを持った人が評価される場であり、ひとり一人が主役になり、生き甲斐のあるまちづくりの場ともなる。商店街はもちろんであるが、林業をはじめとした村の産業とも連携し、経済オンリーの世界を超えた、人が主役の、古くて新しい価値の創造を目指す。										
計画の成果目標（定量的指標）											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・村玄関口となる中心部の交流空間において交流人口を58,200人（H21）から75,000人（H28）へ増加させる。</li> <li>・区域内の滞在人口を6,900人（H21）から10,000人（H28）へ増加させる。</li> <li>・物産販売施設の充実を図り、利用者数を14,400人（H21）から20,000人（H28）へ増加させる。</li> <li>・区域内に整備した交流空間（広場）における交流行事を年6回開催する（H28）。</li> <li>・まちづくり協議会開催数を2（回/年）（H20）から6（回/年）（H28）へ増加させる。</li> <li>・区域内の商店街の売上額を290（百万円/年）（H22）から320（百万円/年）（H28）へ増加させる。</li> </ul>											
全体事業費	合計 (A+B+C)	127.4 百万円	A	127.4 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%	

<b>事後評価</b>										
実施体制				実施時期						
諸塚村企画課にて事後評価を実施				事業終了後						
				公表の方法						
				諸塚村ホームページに掲載						

1. 交付対象事業の進捗状況

**交付対象事業**

<b>A 基幹事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	道路種別	省略工種	率(基本)	要素事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
												H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	都市再生	一般	諸塚村	直接	諸塚村	-	-	-	都市再生整備計画(諸塚地区)	高質空間施設、地域生活基盤施設等	諸塚村						127.4	
合計												127.4						

<b>B 関連社会資本整備事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	率(基本)	要素事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考	
											H25	H26	H27	H28	H29			
合計												0						

番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考

<b>C 効果促進事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	率(基本)	要素事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考	
											H25	H26	H27	H28	H29			
合計												0						

番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考

**その他関連する事業**

計画の名称										
番号	事業種別	交付団体	要素事業名	市町村名	全体事業費(百万円)	備考				

番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	道路種別	省略工種	率(基本)	要素事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
												H24	H25	H26	H27	H28		
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況																		
I. 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況			本整備計画に基づいて事業と平行し、地域内の住宅・店舗が村産材により新築された。水防災事業によるかさ上げ工事、都市再生整備計画事業による施設整備、地域住民による住宅建築を通して官民一体のまちづくりとなった。FSC森林認証材の活用が行われたことで視察等での来訪が多く、地域で一体的に受け入れが行われている。また、商工会や地域住民のイベントの開催回数も増えており、今後も活発な活動が見込まれる。															
II. 定量的指標の達成状況			交流人口の増加	最終目標値	75,000	人/年	目標値と実績値に差が出た要因	従前値を大きく下回る結果となっており、社会情勢を勘案した目標値の設定ができていなかったことが大きな要因であると考えられる。平成26年から平成27年の推移を見ると600人ほど増という結果になっており、近年減少傾向であったところだが、改善の兆しも見られる。										
				最終実績値	33,600	人/年												
			宿泊人口の増加	最終目標値	10,000	人/年	目標値と実績値に差が出た要因	整備地域周辺の宿泊施設の廃業が重なり、物理的に宿泊者の受け入れが難しくなったことが要因の一つであるとする。宿泊場所が少ない中でも平成25年実績も26年実績では700人弱の増となっている。										
				最終実績値	3,887	人/年												
			物産販売施設利用者数の増加	最終目標値	20,000	人/年	目標値と実績値に差が出た要因	新規リニューアルオープンに対する期待値が大きく、現実的な目標値の設定ができていなかった。実際には来客数は減少傾向にあるが一人あたりの単価が増えているので、指標では計りきれない成果もあると思われる。										
				最終実績値	12,291	人/年												
			イベントの開催	最終目標値	6	回	目標値と実績値に差が出た要因	施設整備が行われたことでこれまで存在しなかったイベントスペースを確保することができた。しかし、計画的なイベントの実施ができなかった。地元主催のイベント1回、商工会主催のイベント1回しか計画することができなかった。										
				最終実績値	2	回												
			協議会開催回数の増加	最終目標値	6	回	目標値と実績値に差が出た要因	事業開始当初はまちづくり協議会という形で組織が動いていたが、そのあと、まちづくりビジョン策定委員会という形でより地元に近い形で、平均して年に8回程度実施してきた。協議会という形ではなかったため、目標としては未達成とした。										
				最終実績値	0	回												
			商店街の売上額	最終目標値	320,000,000	円	目標値と実績値に差が出た要因	関連事業の水防災事業の早期完了に伴い、地区内へ商店が早期に戻ったことが要因の一つと考えられる。										
				最終実績値	420,000,000	円												
III. 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)																		
3. 特記事項(今後の方針等)																		
<p>今後は商工会と中心に施設を活用した賑わいの創出を図るため、イベントの開催を通して官民一体の取り組みを進める。</p>																		